

大学入学者選抜について

大学入学者選抜の現状

【大学入試の基本的な考え方】

大学がどのような選抜でどのような入学者を受け入れるかについては、各大学・学部等の入学者受入方針に基づき実施するものであり、各大学においては、入学者受入方針に基づき、その入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に判定するため、様々な取組みを実施。

文部科学省としても大学入試を実施する上でのガイドラインとして大学入学者選抜実施要項を毎年度、大学に通知し、入学者受入方針の明確化や選抜方法の多様化、評価尺度の多元化を推進。

○平成27年度大学入学者選抜実施要項(関連部分抜粋)

第1 基本方針

各大学（短期大学を含む。以下同じ。）は、入学者の選抜を行うに当たり、入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）の教育を乱すことのないよう配慮する。

能力・意欲・適性等の判定に当たっては、高等学校段階で育成される学力の重要な要素（基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学習意欲）を適切に把握するよう十分留意する。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮する。

また、各大学は、当該大学・学部等の教育理念、教育内容等に応じた入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえた上で、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。

主な入試方法は以下のとおり。

(1) 一般入試

調査書の内容、学力検査、面接・小論文等大学が適当と認める資料や方法により判定する方法。

(2) 推薦入試

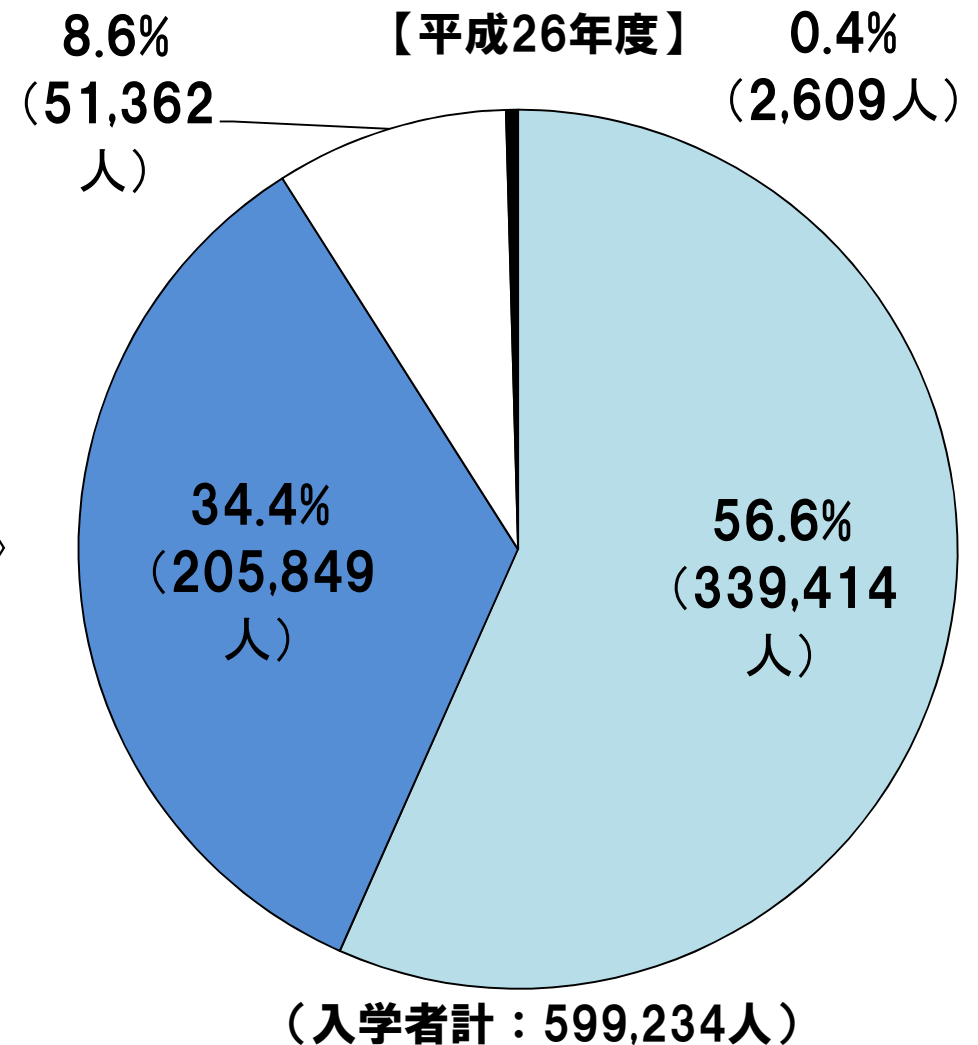
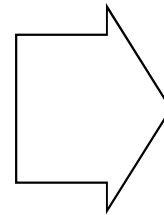
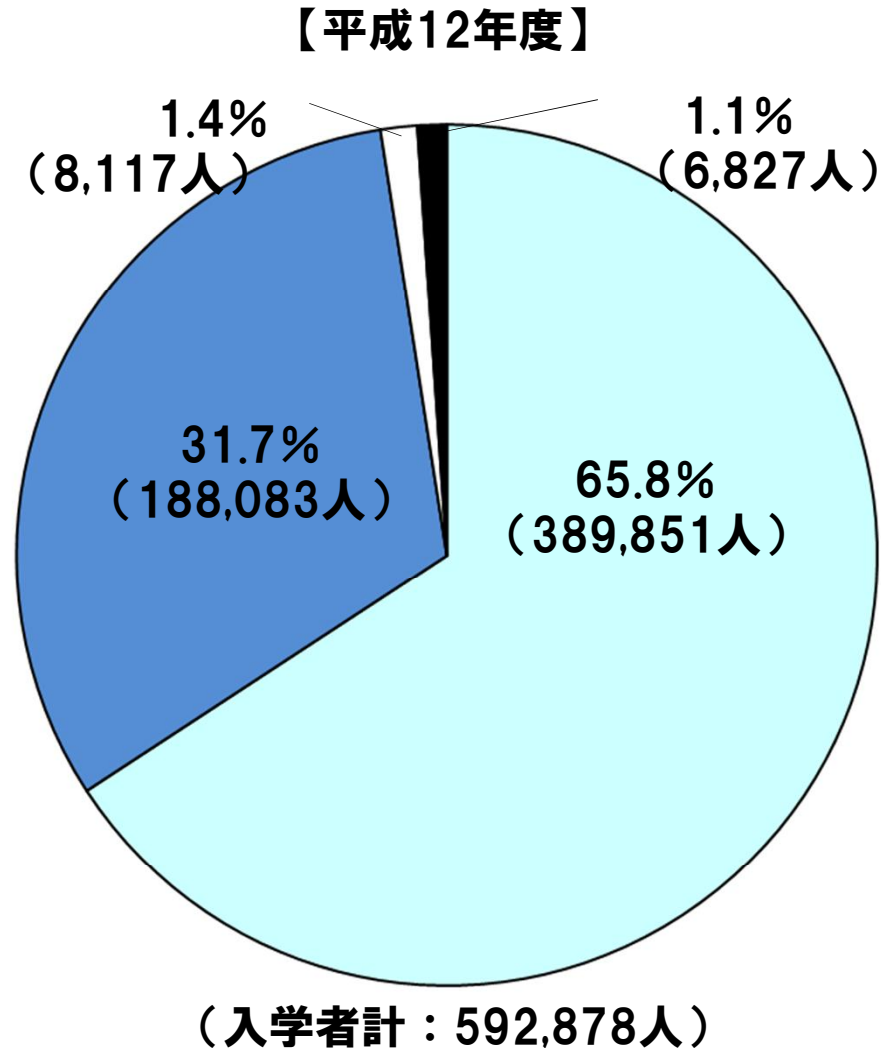
出身学校長の推薦に基づいて、原則として学力検査等を免除し、調査書を主な資料として、面接・小論文等を活用して判定する方法。

(3) アドミッション・オフィス入試(AO入試)

学力試験に偏ることなく、詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせ、受験生の能力・適性や学習に対する意欲・目的等を総合的に判定する方法。

平成26年度入学者選抜実施状況の概要（平成12年との比較）

平成12年度(AO入試調査開始年度)に比べて、AO入試、推薦入試を経由した入学者が大きく増加しており、入試方法の多様化が進んでいる。



□一般入試 ■推薦入試 □アドミッション・オフィス入試 ■その他

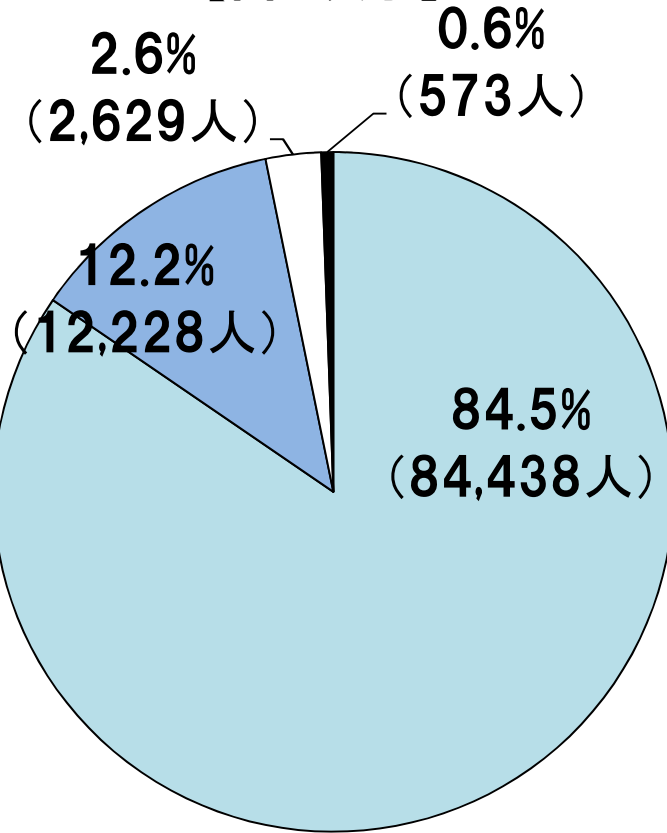
(注)「その他」：専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

平成26年度入学者選抜実施状況の概要（国公立別）

国公立大学では一般選抜が中心

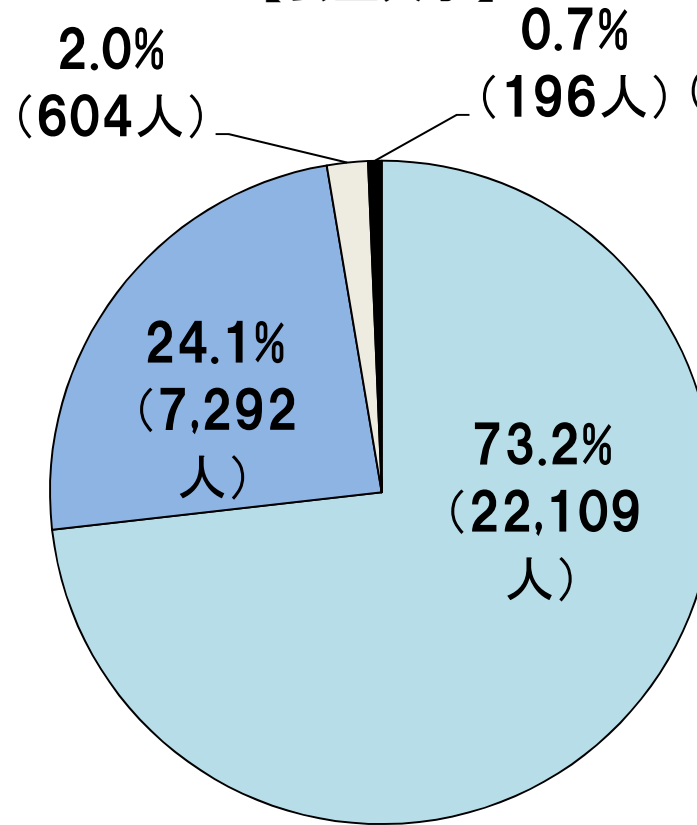
私立では約半数がAO入試、推薦入試を経由して入学している

【国立大学】



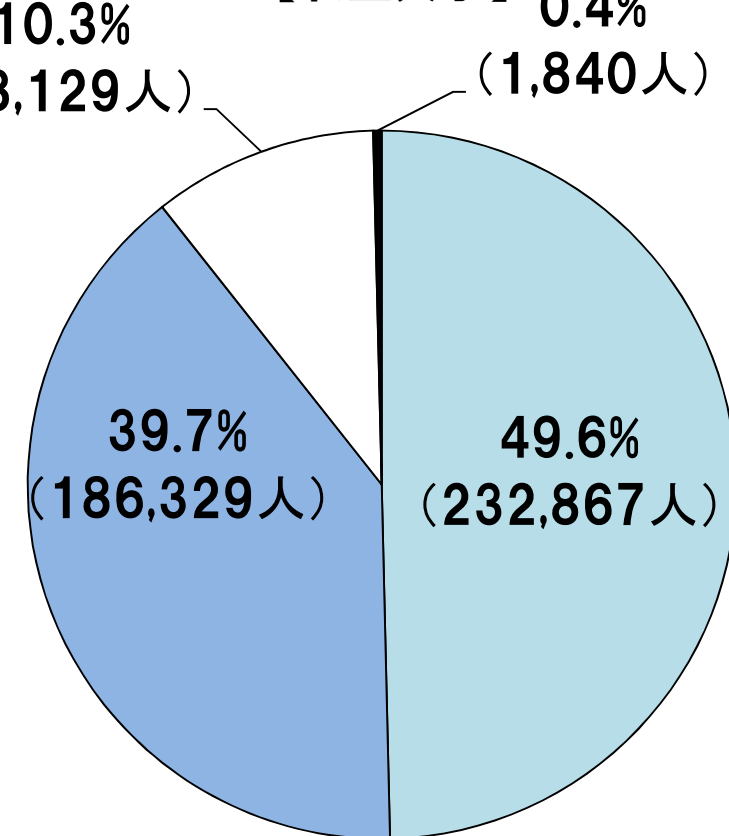
（入学者計：99,868人）

【公立大学】



（入学者計：30,201人）

【私立大学】

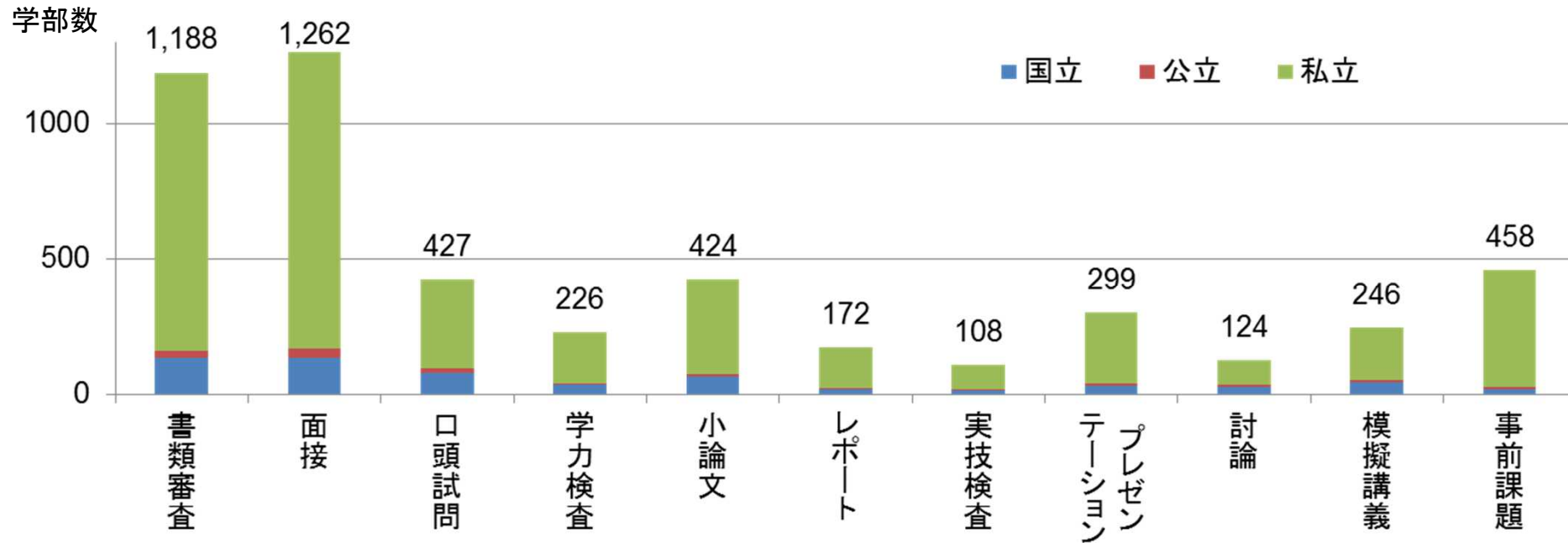


（入学者計：469,165人）

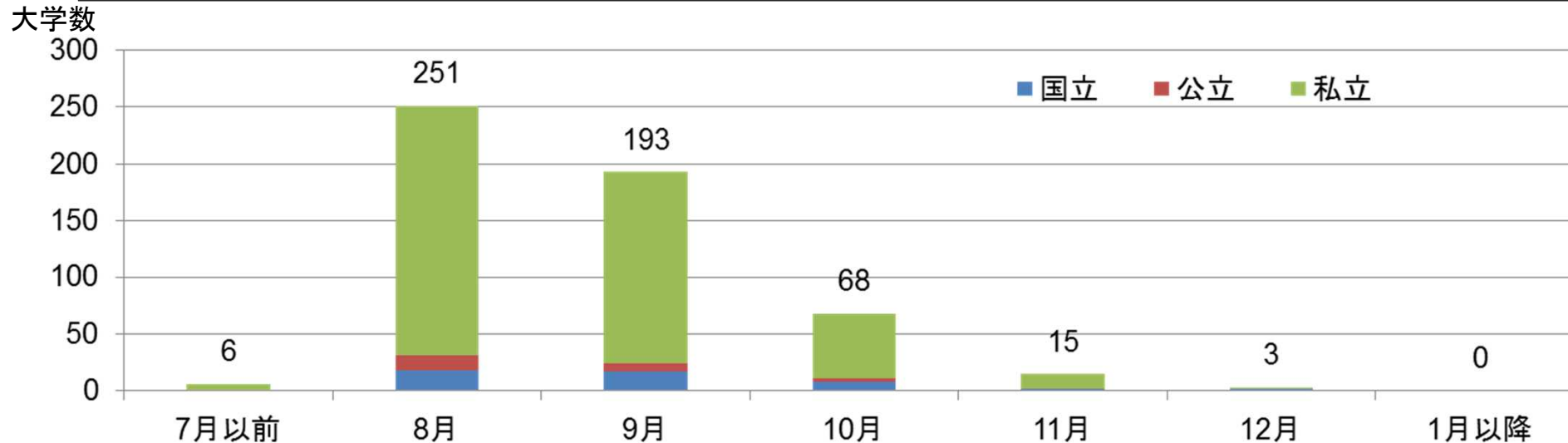
□ 一般入試 ■ 推薦入試 □ アドミッション・オフィス入試 ■ その他

平成25年度大学入学者選抜におけるAO入試の実施状況について

AO入試を実施する学部約9割は書類審査や面接による選抜を実施（AO実施学部は1,326学部）。

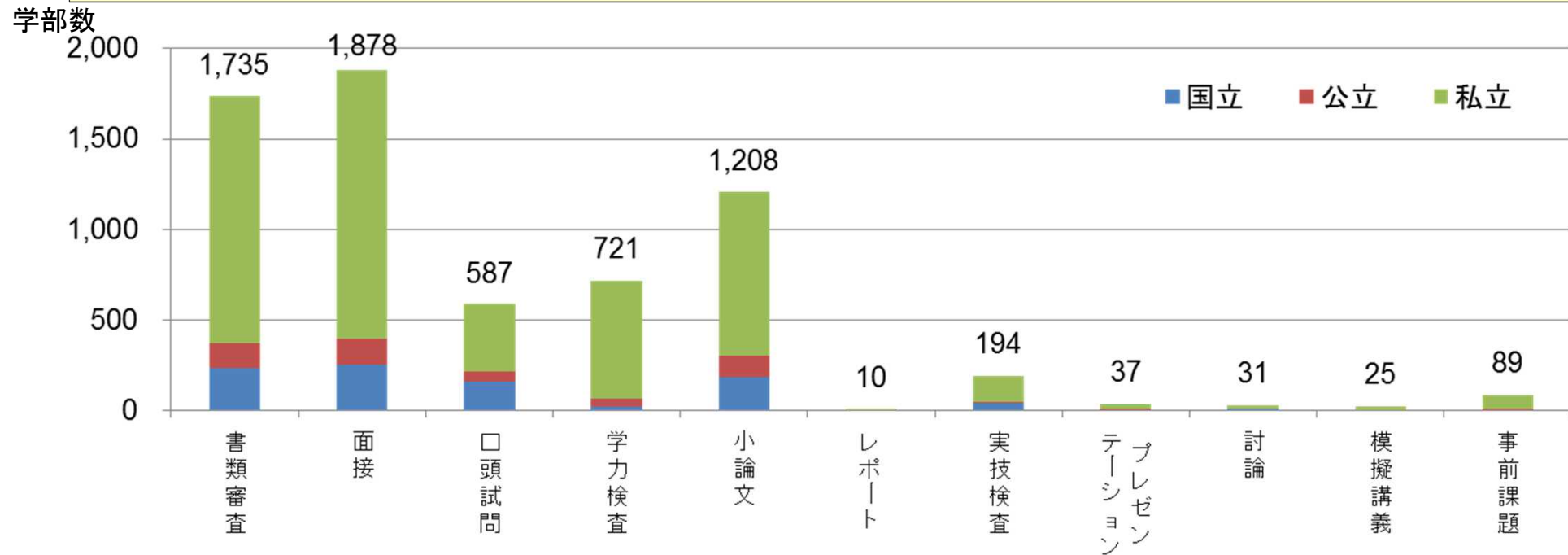


AO入試を実施する大学の約9割以上が8月～10月に出願時期を設定。

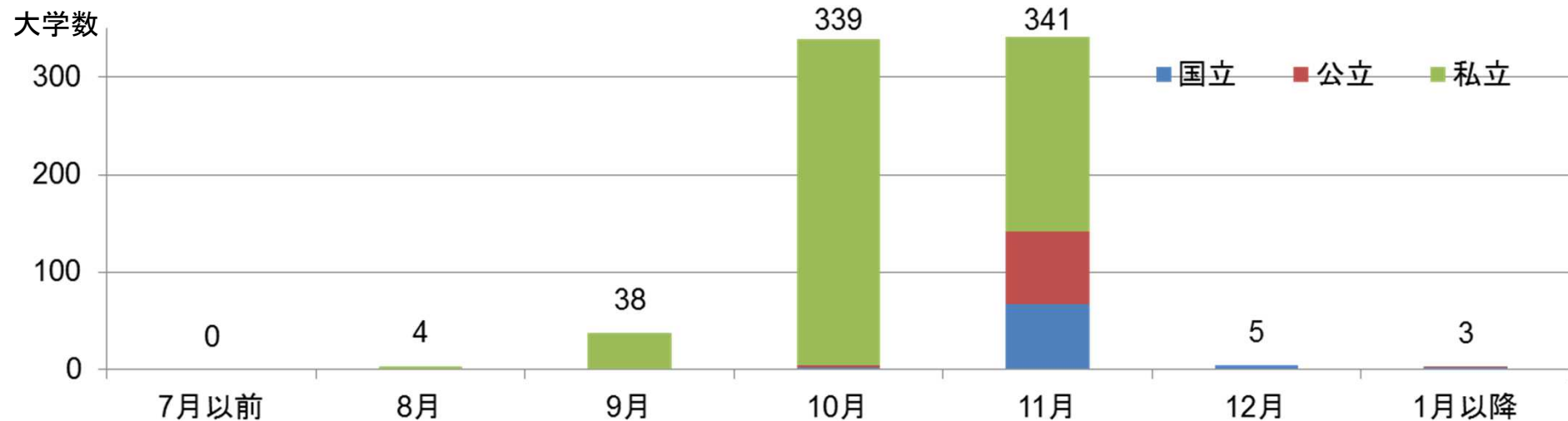


平成25年度大学入学者選抜における推薦入試の実施状況について

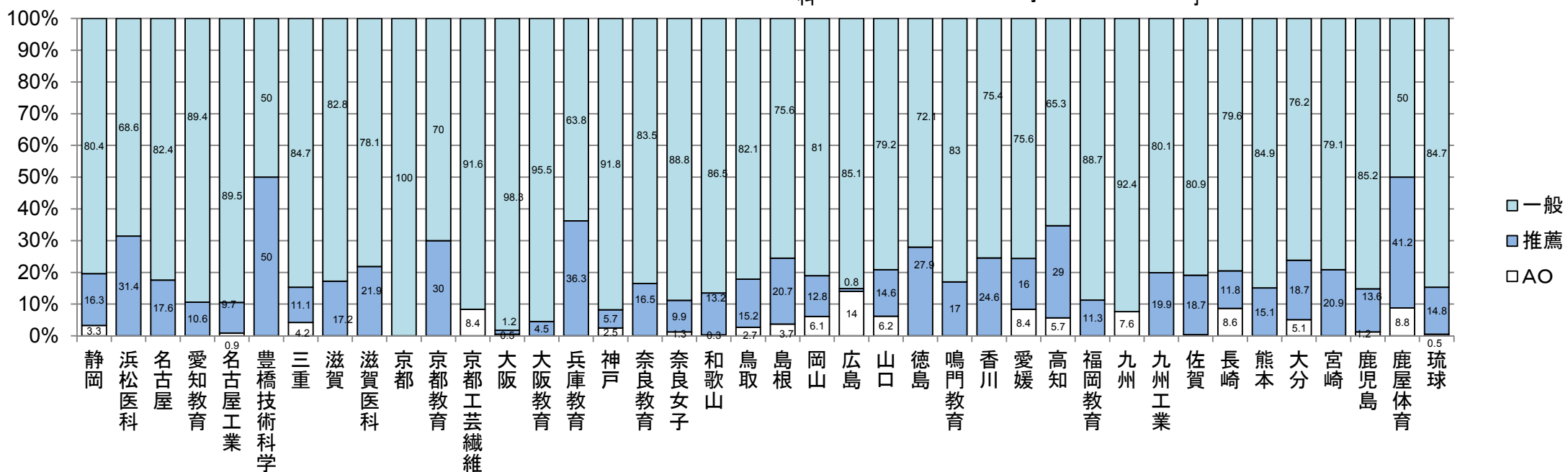
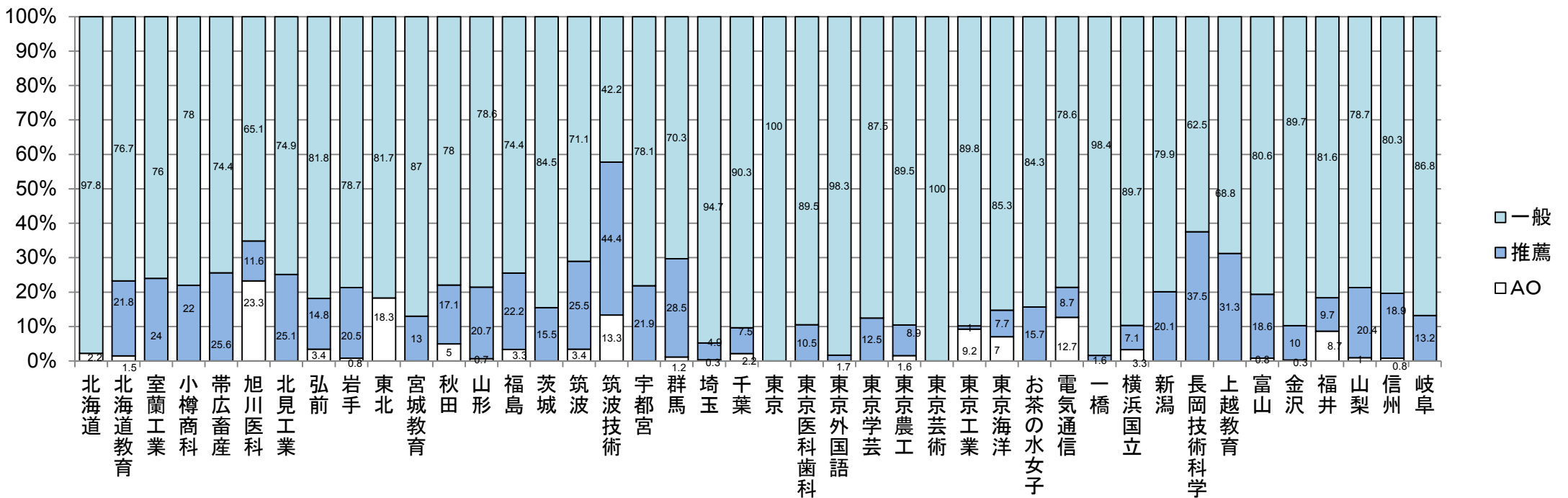
推薦入試を実施する学部の上は書類審査や面接による選抜を実施し、6割が小論文を実施（推薦実施学部は2065学部）。



推薦入試を実施する大学の半数以上が10月以前に出願時期を設定。



国立大学における入試区分毎の募集人員の割合(平成27年度入試)



※東京大学、京都大学は、平成28年度入試より、推薦入試、AO入試を実施予定。

東京大学の推薦入試(平成28年度入試より導入予定)の例

[概要]

- ・ 全10学部で募集。募集人員は各学部で設定するが、全体として100名程度
- ・ 各学校からの推薦は男女各1名の合計2名まで(複数学部への推薦不可)
- ・ 各学部が定める推薦要件に該当し、平成28年度大学入試センター試験のうち、大学が定める教科・科目の全てを受験した者
- ・ 出願書類と面接等の審査結果及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価して決定。
- ・ **大学入試センター試験**は、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判断する観点から、**8割以上**の得点であることを目安とする。

[各学部の例1:法学部(募集人員:10名程度)]

推薦要件: **高校の学業成績(各校の上位概ね5%以内)**や問題発見能力、課題設定能力を有すること、異なる文化的背景等を有する他者とのコミュニケーション能力に優れていることなどを要求

出願書類: **調査書**のほか、**推薦要件に合致することを証明する書類**(例えば、在学中に執筆した論文で志願者の問題発見能力・課題設定能力を証明するもの、表彰状や新聞記事等の社会に貢献する活動の内容を証明する資料、留学経験等の志願者が異なる文化的背景や価値観への理解を有することを示す資料、国際バカロレアやSATなど国際通用生のある入学資格試験における優秀な成績を証明する資料、TOEFLや英検、IELTSなどの外国語に関する語学力の証明書など)を要求

選抜方法: **提出書類**のほか、**グループディスカッション**や**個別面接**、**大学入試センター試験の結果**を総合的に評価

[各学部の例2:経済学部(募集人員:10名程度)]

推薦要件: 高等学校等でいずれかの分野における飛び抜けた才能を有すること、他者との対話性に優れ、経済分野に強い関心を有すること、高等学校等において英語、数学、地理歴史・公民のいずれかの2教科において成績が優秀であること。(地理歴史・公民はいずれかの1科目のみを対象)

提出書類: **調査書**のほか、**推薦要件に合致することを証明する書類**(例えば、数学オリンピックなどの科学オリンピックで顕著な成績をあげたことを示すもの、TOEFLや英検、IELTSなどの英語その他の外国語に関する語学力の試験において高得点を取ったことを示すもの、全国レベルの大会・コンクールでの入賞記録、留学を含む様々な国際的活動で、その内容が第三者によって高く評価されたものについて、その詳細や評価内容を記した文書など)を要求

選抜方法: **提出書類**のほか、**個別面接**(面接時に課題遂行能力を試すための課題を課す場合あり)、**大学入試センター試験の結果**を総合的に評価

京都大学の特色入試(平成28年度入試より導入予定)の例

[概要]

- ・ 全10学部で募集。募集人員は各学部で設定するが、全体として100名程度
- ・ 高等学校における幅広い学習に裏付けられた**総合力**と**学ぶ力**及び**高い志**を評価し、個々の学部が定めたカリキュラムと教育コースを受けるにふさわしい**学力**と**意欲**を備えた者を選抜
- ・ 第一次選考で高大接続を重んじる観点から、志願者自らの学ぶ意欲や志について書類選考を通じて評価。
- ・ 第二次選考では、各学部において、学部が必要とする基礎学力や教育コースへの適合力を測定する能力測定考査ならびに論文試験、面接試験等を組み合わせて、望ましい人材の選抜を丁寧を実施。
- ・ 大学入試センター試験は、多くの場合、基礎学力を把握するために利用。

[各学部の例1:教育学部(募集人員:6名)]<学力型AO>

出願要件:**評定平均値4.3以上**で大学入試センター試験で指定した教科・科目を受験する者

出願書類:**調査書、学びの報告書、学びの設計書**

選抜方法:第一次選考は、調査書、**学びの報告書、学びの設計書**により選考

第二次選考は、第一次選考に合格した者に対して、**課題と口頭試問**を行い、その成績と提出書類と総合して選考

課題では、読解力、論理的・批判的思考力、問題解決能力などについて評価

口頭試問では、探究心と洞察力、コミュニケーション能力などについて評価

第二次選考の配点は、課題50点、口頭試問50点の計100点

最終選考は、第二次選考合格者で、**大学入試センターの得点の合計が900点満点中80%以上の者**を合格者とする。

[各学部の例2:工学部電気電子工学科(募集人員:5名)]<推薦>

推薦要件:人格・識見ともに特段に優れている者

特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎力を有する者

授業科目の一環として実施した課題研究や科学に関する課外活動において顕著な実績をあげた者

大学入試センター試験で指定した教科・科目を受験する者

の全てをみたとすこと

提出書類:**調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要**

選抜方法:**提出書類**に重点を置き、A・B・C・Dの4段階で評価し、**A評価**の者のうち、**大学入試センター試験の合計得点が900点満点中80%を越えた者**を合格者とする。

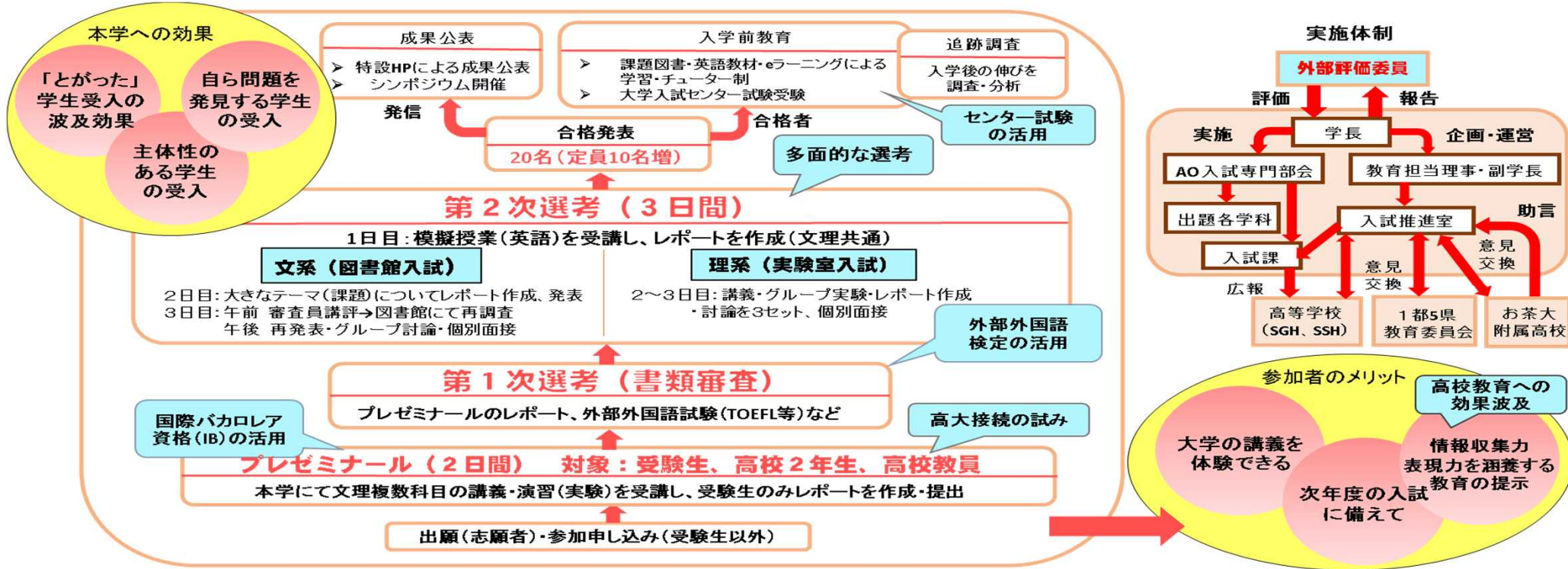
大学等名：お茶の水女子大学

テーマ：テーマⅢ（入試改革）

取り組み概要

本学の取組は、特別入試、とくに現在のAO入試を抜本的に改革し、多面的・総合的に志願者の意欲、適性、能力、基礎学力を見極める入試を構築することを目的とする。募集定員を現在から倍増させ、全学で20人規模とし、丁寧で手間をかけた本学独自の「新フンボルト入試」を実施する。高大接続の要素をもつプレゼミナールおよび3日間にわたる本試験を通じて、基礎学力を担保しつつ受験生のもつ潜在力（ポテンシャル）を見極める。大学入学時に知的ピークを迎える学生ではなく、入学後の学修のなかで能力を大きく伸ばし、大学院に進学し社会に出てからリーダーとして飛躍しようとする「伸びしろ」のある学生を選抜する。

お茶大発 新型AO入試（新フンボルト入試）



【事業の成果】

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
募集定員	10名（現行AO）	20名（新フンボルト入試）			
プレゼミナール参加高校教員数	-	30名	40名	45名	50名
プレゼミナール本入試	-	実施（2日間）	4日ないし5日間（新フンボルト入試）		
	2日間（現行AO）				

- ・多面的な能力評価を通じて「とがった」学生を受け入れることにより、学生の多様性が高まり、大学教育全体の活性化が期待される。
- ・プレゼミナールにより、高校教育への効果波及が見込まれる。
- ・本入試改革の成果を一般入試の一部に応用可能である。

アドミッション・ポリシーの作成状況(平成24年度入試)

○入学受入方針の策定の状況

区分		入学受入方針を定めている大学数		
		学部ごとの入学受入方針を定めている大学・学部数		
		大学数	学部数	
大学	国立	82 (100.0)	81 (98.8)	375 (98.4)
	公立	80 (100.0)	80 (100.0)	173 (100.0)
	私立	579 (100.0)	577 (99.7)	1,618 (99.0)
	計	741 (100.0)	738 (99.6)	2,166 (99.0)

○入学受入方針の明確化の状況

区分		求める学生像だけでなく、高等学校段階で習得しておくべき内容・水準を具体的に定めている大学数
大学	国立	58 (70.7)
	公立	27 (33.8)
	私立	231 (39.9)
	計	316 (42.6)

文部科学省大学入試室調べ

○学校教育法施行規則第一百七十二条の二(平成22年6月改正、平成23年4月施行)

大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

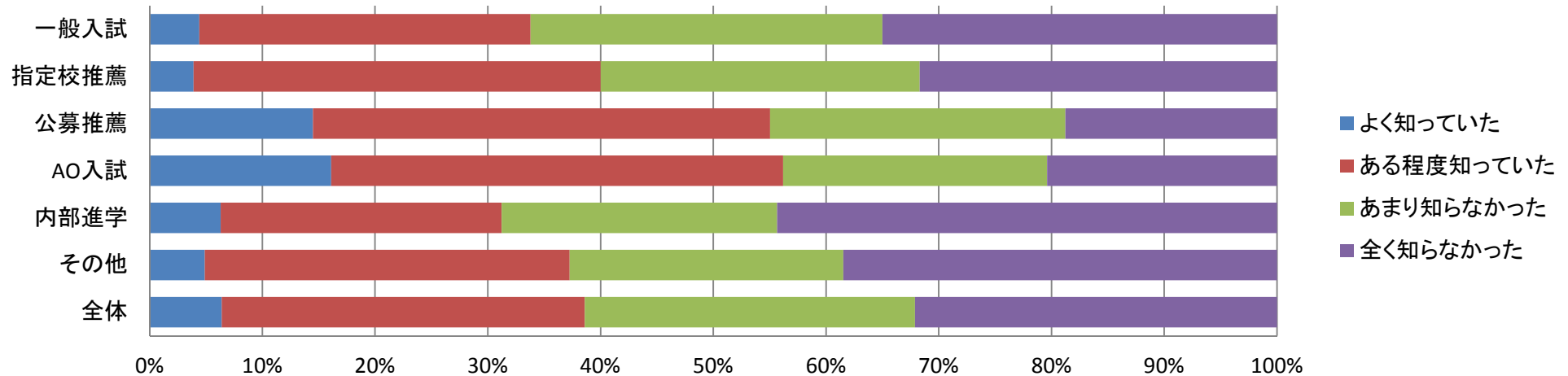
- 一 大学の教育研究上の目的に関する事
- 二 教育研究上の基本組織に関する事
- 三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する事
- 四 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事
- 五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事
- 六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たつての基準に関する事
- 七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事
- 八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事
- 九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する事

2 大学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。

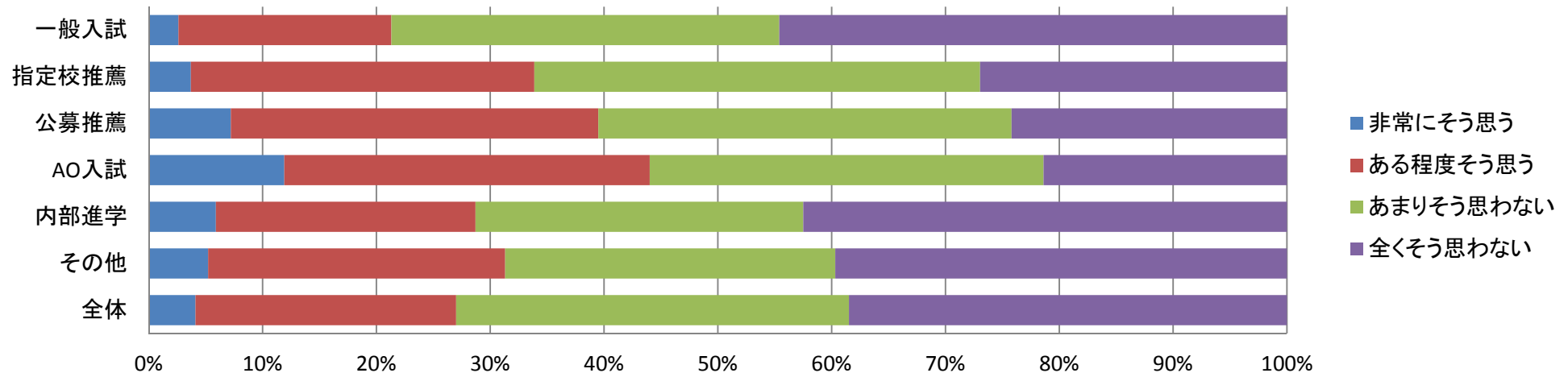
3 第一項の規定による情報の公表は、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によつて行うものとする。

アドミッション・ポリシーに対する学生の受け止め

入学者のアドミッションポリシーの認知度



アドミッション・ポリシーを重視して大学を選んだか



アドミッション・ポリシーに基づいて大学が求める能力を明示している例(東京大学)

高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと(数学の例※)

東京大学を志望する皆さんには、アドミッション・ポリシーにも明示されているように、本学に入学するまでに、できるだけ多くのことを、できるだけ深く学んでほしいと思います。以下、本学を受験しようと考えている皆さんに向けて、高等学校段階までの学習において、特に留意してほしいことを教科別に掲げます。

※数学のほか、国語、地理歴史・公民、理科、外国語について掲げられている。

数 学

数学は、自然科学の基底的一分野として、人間文化の様々な領域で活用される学問であり、科学技術の発展に貢献するだけでなく、社会現象を客観的に表現し予測するための手段ともなっています。そのため、東京大学の学部前期課程(1, 2年生)では、理科各類の全学生が解析・代数を必修科目として履修し、文科各類の学生も高度な数学の授業科目を履修できるカリキュラムが用意されています。

本学に入学しようとする皆さんは、入学前に、高等学校学習指導要領に基づく基本的な数学の知識と技法を習得しておくことはもちろんのことですが、将来、数学を十分に活用できる能力を身につけるために、次に述べるような総合的な数学力を養うための学習を心掛けてください。

1) 数学的に思考する力

様々な問題を数学で扱うには、問題の本質を数学的な考え方で把握・整理し、それらを数学の概念を用いて定式化する力が必要となります。このような「数学的に問題を捉える能力」は、単に定理・公式について多くの知識を持っていることや、それを用いて問題を解く技法に習熟していることとは違います。そこで求められている力は、目の前の問題から見かけ上の枝葉を取り払って数理としての本質を抽出する力、すなわち数学的な読解力です。本学の入学試験においては、高等学校学習指導要領の範囲を超えた数学の知識や技術が要求されることはありません。そのような知識・技術よりも、「数学的に考える」ことに重点が置かれています。

2) 数学的に表現する力

数学的に問題を解くことは、単に数式を用い、計算をして解答にたどり着くことではありません。どのような考え方に沿って問題を解決したかを、数学的に正しい表現を用いて論理的に説明することです。入学試験においても、自分の考えた道筋を他者が明確に理解できるように「数学的に表現する力」が重要視されます。普段の学習では、解答を導くだけでなく、解答に至る道筋を論理的かつ簡潔に表現する訓練を十分に積んでください。

3) 総合的な数学力

数学を用いて様々な課題を解決するためには、数学を「言葉」や「道具」として自在に活用できる能力が要求されますが、同時に、幅広い分野の知識・技術を統合して「総合的に問題を捉える力」が不可欠です。入学試験では、数学的な思考力・表現力・総合力がバランスよく身につけているかどうかを判断します。

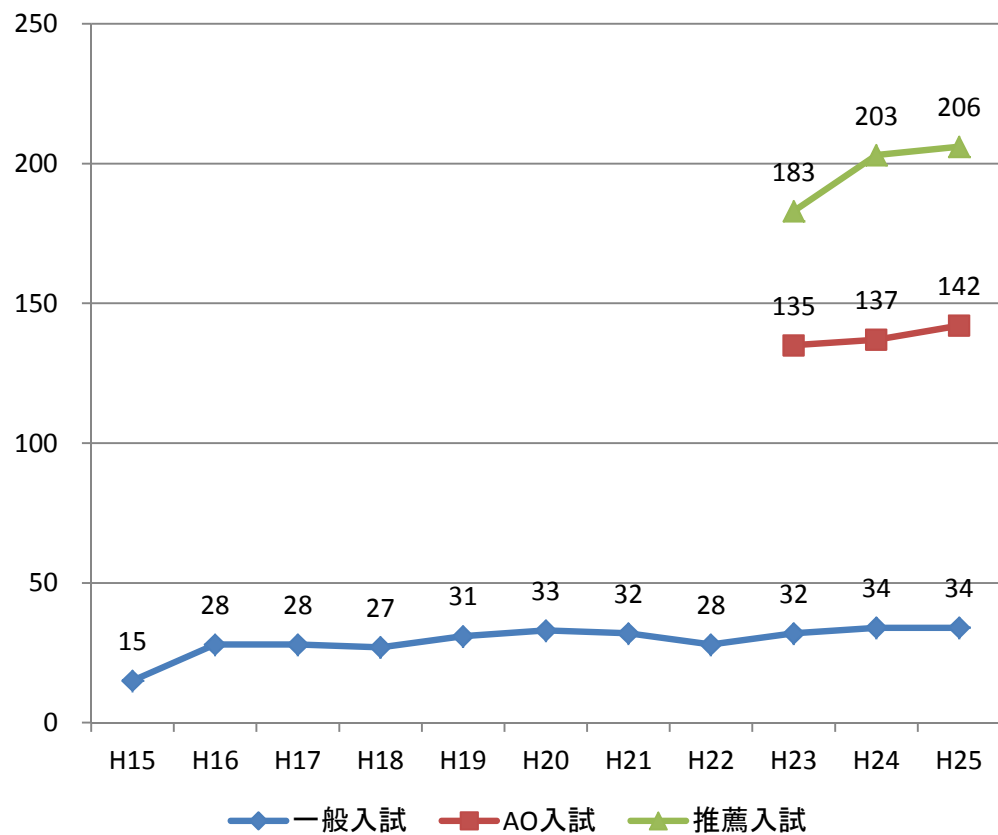
一般入試において面接、小論文等を課す国公立大学(平成27年度入試)

区 分	平 成 2 7 年 度					
	国 立		公 立		計	
入 学 者 選 抜 の 実 施 大 学 ・ 学 部 数 《 募 集 人 員 》	大学	学部	大学	学部	大学	学部
	82	385	84	178	166	563
	《 96, 136 》		《 28, 889 》		《 125, 025 》	
小 論 文	64	178	59	89	123	267
	(78.0)	(46.2)	(70.2)	(50.0)	(74.1)	(47.4)
総 合 問 題	21	43	16	19	37	62
	(25.6)	(11.2)	(19.0)	(10.7)	(22.3)	(11.0)
面 接	64	160	57	85	121	245
	(78.0)	(41.6)	(67.9)	(47.8)	(72.9)	(43.5)
実 技 検 査	53	56	17	22	70	78
	(64.6)	(14.5)	(20.2)	(12.4)	(42.2)	(13.9)
リ ス ニ ン グ	11	20	3	4	14	24
	(13.4)	(5.2)	(3.6)	(2.2)	(8.4)	(4.3)

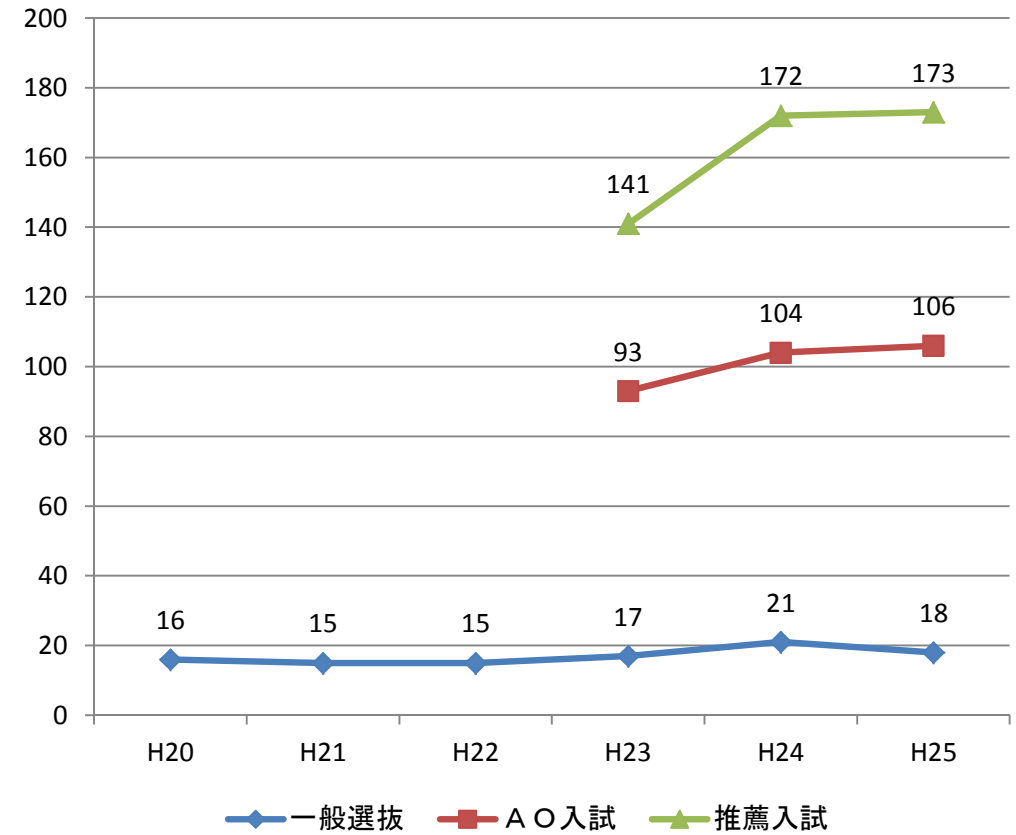
- (注)
1. 本表は、平成26年度7月末現在で集計したものである。(設置認可申請中等の予定のものを含む。)
 2. 学部内の募集単位により選抜方法が異なる場合には、それぞれの箇所計上している。
 3. () 書きは、入学者選抜実施大学・学部数に対する割合を示す。
 4. 別日程とは、一般入試においては分離分割方式によらないで試験を実施するものを示す。以下の資料についても同様。
 5. 募集人員に外国人留学生を対象とする選抜分は含まない。

大学入学者選抜における資格・検定試験等の活用状況(推移)

＜語学関連＞
(大学数)



＜語学以外＞
(大学数)



文部科学省大学入試室調べ

1. 語学関係(英語)

実用英語技能検定、TOEFL、TOEIC、IELTS、国際連合公用語英語検定、ケンブリッジ大学一般英語検定、GTEC、日商ビジネス英語検定、全商英語検定、工業英語能力検定、全工・リスニング英語検定 等

2. 語学関係(英語以外)

実用フランス語技能検定試験、フランス国民教育省認定フランス語資格試験(DELF、DALF)、ドイツ語技能検定試験、スペイン語技能検定、スペイン語検定試験(DELE)、ロシア語能力検定試験、実用中国語技能検定試験、中国語コミュニケーション能力検定、中国語検定試験、漢語水平考試(HSK)、ハングル能力検定試験、韓国語能力試験 等

3. その他

全商各種検定(情報処理、商業経済等)、実用数学技能検定、経産省ITパスポート試験、秘書技能検定、全工各種検定(情報技術、パソコン利用技術等、ジュニアマイスター顕彰)、日商各種検定(販売士、PC、珠算等)、全経簿記能力検定試験、語彙・読解力検定、マイクロソフトオフィススペシャリスト、パソコン検定、情報処理検定、珠算能力検定、全珠連珠算検定、歴史能力検定、世界遺産検定、ヤマハ音楽能力検定、食物調理技術検定、調理師免許 等

国際バカロレアの活用例(平成27年度入試)

1. 玉川大学「国際バカロレアAO型入学審査」

【実施学部(募集人員)】全学部(若干名)

【出願要件】

玉川大学を第一志望(専願)とし、国際バカロレア資格を2014年4月から2015年3月31日までに取得または取得見込みの者(ただし、2015年3月31日までに18歳に達していること)。なおかつ、日本語を母語とする者またはJapaneseBをHLで履修し、成績評価が4以上の者。

【出願に必要な書類】

- ①コミュニケーションシート 受験者の意思を確認する独自の対話形式により構成
- ② EVALUATION FORM カレッジカウンセラーまたはDPコーディネーターが作成。人物的特徴の判断に使用。
- ③ 国際バカロレア資格証書のコピー ④ IB最終試験成績証明書 ⑤高等学校調査書[もしくは成績証明書と卒業(卒業見込)証明書]
- ⑥ 各種資格・検定取得の証明書の写し(指定する検定等に該当する者のみ)

【選抜方法】書類審査

2. 岡山大学「国際バカロレア入試(AO入試)」(4月入学)

【実施学部(募集人員)】文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境理工学部、農学部、およびマッチングプログラムコース(医学部医学科(3人)を除く、各学部若干人)

【出願要件】

- (1)国際バカロレア資格証書(IBフルディプロマ)を平成25年4月から平成27年3月までに授与される者で、平成27年3月31日までに18歳に達するもの
- (2)国際バカロレア資格の取得において、次の①および②に該当する者
 - ①言語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上の者
 - ②岡山大学が指定する科目(1~2科目)を指定のレベルにより履修し、必要な成績評価を修めた者又は成績評価が4以上の者
- (3)岡山大学での勉学を強く希望し、最終の選抜に合格した場合には必ず入学することを確約できる者

【出願に必要な書類】

＜IB試験を受験した者＞

- ①国際バカロレア資格証書の写し ②IB最終試験6科目の成績評価証明書(本紙) ③自己推薦書 様式有り。
- ④評価書 学校長、進路指導担当者又は日本語の担当教員が作成。様式有り。

＜IB試験受験予定者＞

- ①国際バカロレア資格の取得見込み証明書(様式任意) ②IBディプロマPredicted Grades若しくはAnticipated Grades ③自己推薦書 様式有り。
- ④評価書 学校長、進路指導担当者又は日本語の担当教員が作成。様式有り。

【選抜方法】

学部等により、①書類審査のみで行う ②面接(教育学部・医学部・歯学部)の結果および書類審査を総合して行う

多面的・総合的な選抜を行っている例(平成27年度入試)

1. 東北大学工学部:AO入試Ⅱ期(募集人員:104名)

- ・出願要件として調査書の学習成績概評がA段階に属すること又は、高等学校の教科の評定平均値(理数系教科4.5且つ全体4.0以上)を要求
- ・出願書類(210点)、小論文試験(240点)、面接試験(150点)を総合的、多面的に評価(計600点満点)
- ・志願者数が募集人員を大幅に上回る場合は、出願書類による第1次選抜を実施
- ・出願書類として活動報告書(主要な活動の経歴、成果等を志願者が作成、記載事項確認者が確認)、志願者評価書(出身(在学)学校長が作成)、志望理由書の提出を要求

2. 慶應義塾大学総合政策学部・環境情報学部:自由応募入試 A方式(募集人員:各学部100名(他の方式と合算))

- ・出願書類をもとに第1次選抜を実施
- ・出願書類として志願者評価(志願者を客観的に知る立場にある者2名が作成)、活動報告(中学卒業後から出願に至るまでの学業・学業外の活動内容について志願者が作成。出願要件の判断に使用。)、志望理由・入学後の学習計画・自己アピール(志望理由とともに文章と自由記述を用いて自由に表現)、任意資料(所定の資料だけでは表現しきれないもので、選考にあたり有用と判断した資料)を要求
- ・第2次選抜で面接試験(30分)を実施

3. 九州大学21世紀プログラム:AO入試(募集人員:26名)

- ・出願書類をもとに第1次選抜を実施
- ・出願書類として調査書、志望理由書、活動歴報告書(中学時代から出願時までに取り組んだ学校での勉学以外の各種活動等について記述したものを志願者が作成)を要求
- ・第2次選抜で講義(3講義、各約50分)に関するレポート(各約70分)と討論(150分)、小論文(約270分)及び面接(約15分)を課し、提出書類の内容と合わせて総合判定

大学入試センター試験の概要

【目的】

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、大学が共同して実施。

【平成27年度大学入試センター試験】

1. 試験期日

・本 試 験：平成27年1月17日(土)
18日(日)

・追(再)試験：平成27年1月24日(土)
25日(日)

※試験は1/13日以降の最初の土日に実施

3. 志願者数、利用大学数等

・志願者数：559, 132人
[対前年度▲1, 540人]

・試験場数：690試験場
[対前年度▲3試験場]

・利用大学数：689大学
[対前年度＋4大学]

160短期大学
[対前年度＋2短期大学]

(国公私別)

国立 82大学 [100%]

公立 84大学 [100%]

私立 523大学 [90%]

公立 16短期大学[94%]

私立 144短期大学[45%]

【平成27年度試験時間割】

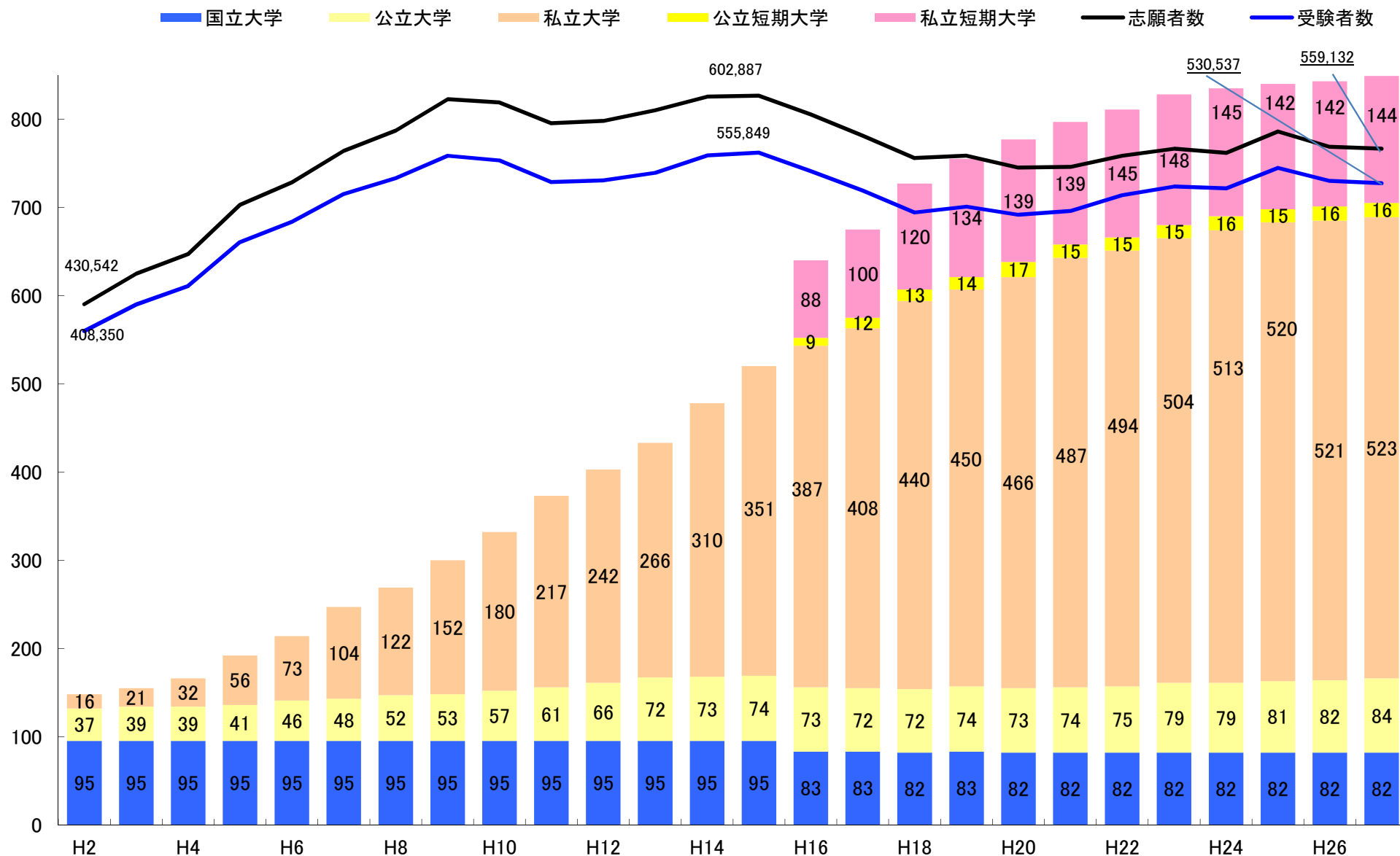
※出題教科科目数 6教科31科目(第1回(平成2年) 5教科18科目)

期 日	出 題 教 科 ・ 科 目		試 験 時 間
平成27年 1月17日(土)	地理歴史 公 民	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」「倫理、政治・経済」	2科目受験 9:30～11:40 1科目受験 10:40～11:40
	国 語	「国語」	13:00～14:20
	外 国 語	「英語」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」	【筆記】 15:10～16:30 ----- 【リスニング】 「英語」のみ 17:10～18:10
1月18日(日)	理 科 ①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	9:30～10:30
	数 学 ①	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」 「旧数学Ⅰ」「旧数学Ⅰ・旧数学A」	11:20～12:20
	数 学 ②	「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」 「工業数理基礎」「簿記・会計」 「情報関係基礎」 「旧数学Ⅱ・旧数学B」	13:40～14:40
	理 科 ②	「物理」「化学」 「生物」「地学」 「理科総合A」「理科総合B」 「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」「地学Ⅰ」	2科目受験 15:30～17:40 1科目受験 16:40～17:40

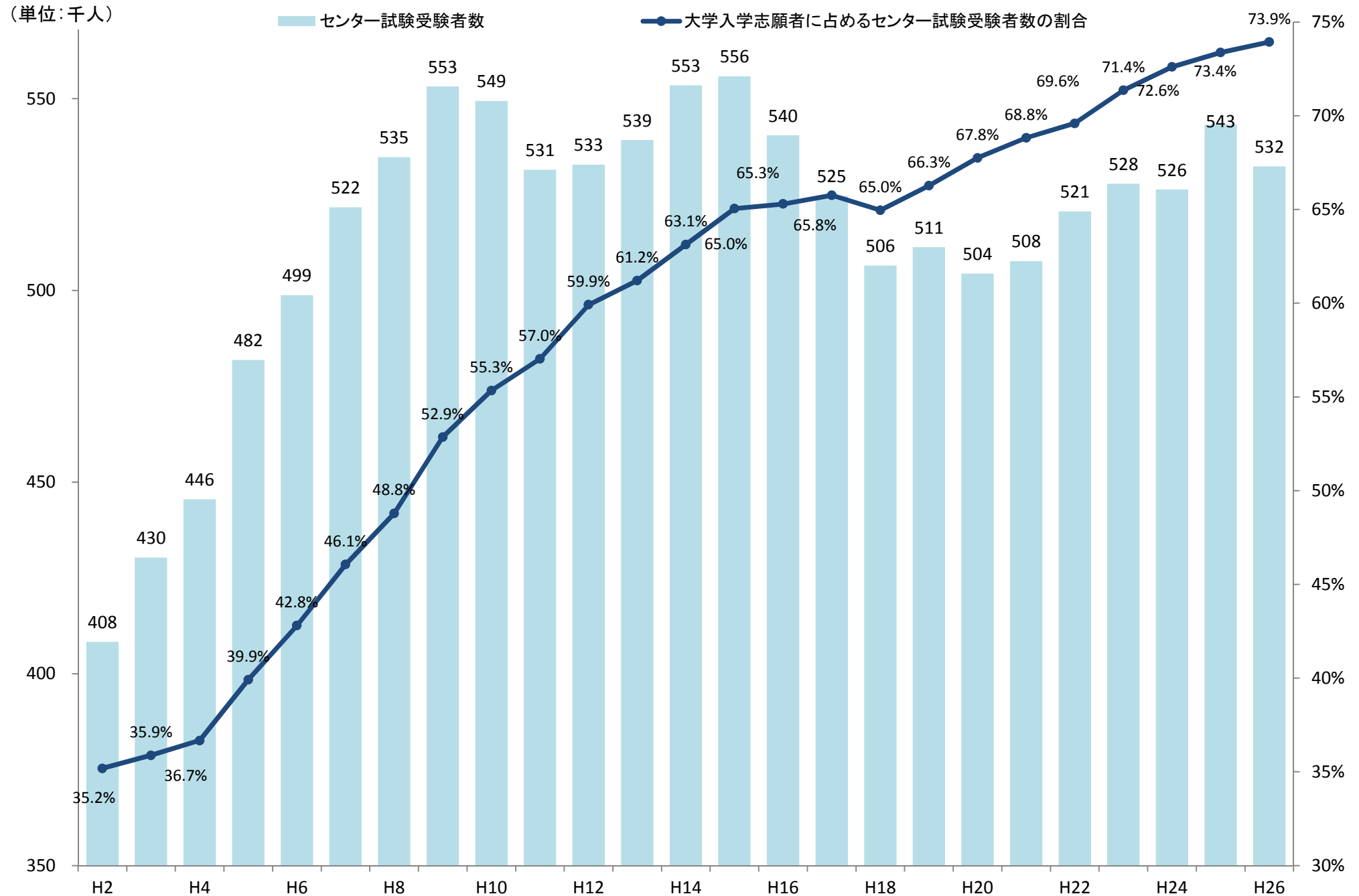
※参加大学数の割合の母数は、平成26年度入学者選抜を実施した大学数。

大学入試センター試験参加大学数及び志願者・受験者数の推移

- 平成2年度の第一回試験から平成27年度試験で26回目の実施(平成18年度試験から英語リスニングを実施し、平成27年度試験で10回目の実施)。
- 参加大学については、第一回から年々増加しており、平成27年度試験参加大学数は国公私合計849大学(うち160短期大学)。
- 志願者数については、平成15年度試験の602,887人がピーク。平成27年度試験の志願者数は559,132人(対前年1,540人減)。



センター試験受験者数と大学入学志願者に占めるセンター試験受験者数割合



平成27年度大学入試センター試験（本試験）科目別受験者数及び平均点について

受験者数 530,257人

教 科 名	科 目 名	受 験 者 数	平 均 点	最 高 点	最 低 点	標 準 偏 差
国 語 (200点)	国 語	501,415	119.22 (59.61)	200 (100)	0 (0)	33.39 (16.69)
地理歴史 (100点)	世 界 史 A	1,376	47.37	100	0	19.46
	世 界 史 B	84,053	65.64	100	0	22.67
	日 本 史 A	2,409	45.64	100	0	17.82
	日 本 史 B	155,273	62.01	100	0	18.16
	地 理 A	1,843	51.40	97	0	15.58
	地 理 B	146,846	58.59	100	0	15.22
公 民 (100点)	現 代 社 会	76,698	58.99	100	0	16.70
	倫 理	30,740	53.39	97	0	16.45
	政 治 ・ 経 済	45,300	54.79	100	0	15.66
	倫理, 政治・経済	48,659	59.57	98	0	14.82

(注1) 平均点、最高点、最低点及び標準偏差欄の()内の数値は、100点満点に換算したものである。

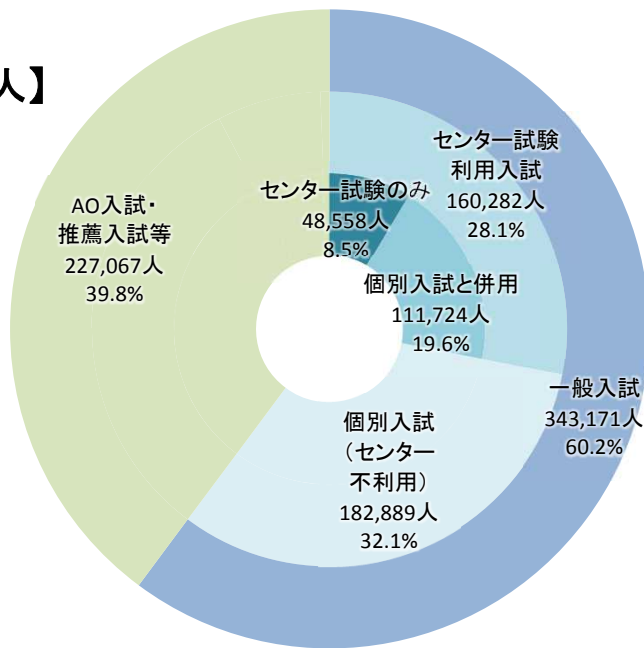
(注2) 上表の数値は、得点調整後のものである。

教 科 名		科 目	名 受 験 者	数 平	均 点	最 高 点	最 低 点	標 準 偏 差
数 学	数学① (100点)	数 学 I	5,277	32.38	100	0	17.37	
		数 学 I ・ 数 学 A	338,406	61.27	100	0	20.31	
		旧 数 学 I	627	33.18	100	0	19.64	
		旧 数 学 I ・ 旧 数 学 A	53,118	70.33	100	0	21.88	
	数学② (100点)	数 学 II	4,944	23.83	100	0	13.61	
		数 学 II ・ 数 学 B	301,184	39.31	100	0	20.91	
		工 業 数 理 基 礎	35	55.03	92	18	20.06	
		簿 記 ・ 会 計	1,266	66.50	100	2	19.92	
		情 報 関 係 基 礎	462	51.95	95	14	15.62	
		旧 数 学 II ・ 旧 数 学 B	51,700	49.90	100	0	23.25	
理 科	理科① (50点)	物 理 基 礎	13,289	31.52 (63.04)	50 (100)	0 (0)	11.67 (23.34)	
		化 学 基 礎	88,263	35.30 (70.60)	50 (100)	0 (0)	11.63 (23.26)	
		生 物 基 礎	116,591	26.66 (53.32)	50 (100)	0 (0)	9.91 (19.82)	
		地 学 基 礎	41,617	26.99 (53.98)	50 (100)	0 (0)	9.18 (18.36)	
	理科② (100点)	物 理	129,193	64.31	100	0	22.63	
		化 学	175,296	62.50	100	0	22.01	
		生 物	68,336	54.99	100	0	19.08	
		地 学	1,992	40.91	100	0	17.07	
		理 科 総 合 A	431	57.77	96	16	16.12	
		理 科 総 合 B	730	55.26	97	4	16.07	
		物 理 I	29,832	69.94	100	0	20.85	
		化 学 I	43,347	66.67	100	0	22.20	
		生 物 I	22,026	60.87	100	0	19.75	
		地 学 I	2,893	58.72	100	0	19.61	
外 国 語	【筆記】 (200点)	英 語	523,354	116.17 (58.08)	200 (100)	0 (0)	40.96 (20.48)	
		ド イ ツ 語	135	144.78 (72.39)	200 (100)	44 (22)	46.76 (23.38)	
		フ ラ ン ス 語	142	148.28 (74.14)	200 (100)	43 (21)	38.05 (19.02)	
		中 国 語	427	158.63 (79.31)	196 (98)	34 (17)	32.27 (16.13)	
		韓 国 語	143	139.05 (69.52)	196 (98)	40 (20)	38.84 (19.42)	
	【リスニング】 (50点)	英 語	516,429	35.39 (70.78)	50 (100)	0 (0)	9.77 (19.54)	

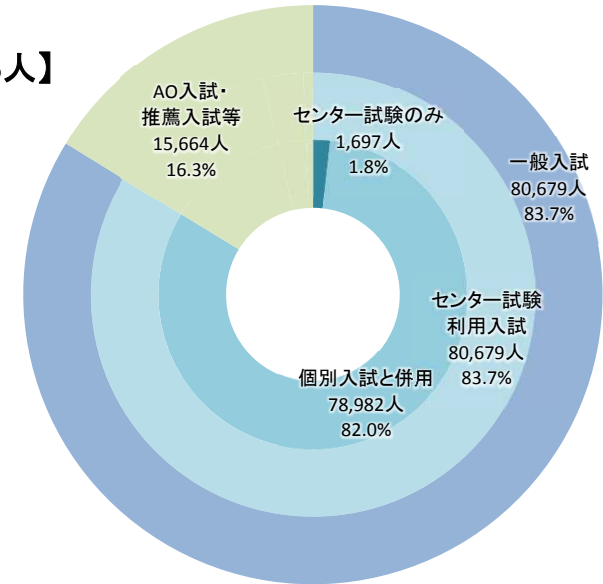
大学入試センター試験のみで合否判定を行う大学入試の状況(平成22年度入試)

国公立大学(全731大学)のうち、651大学(全大学の89.1%)がセンター試験利用入試を行い、
うち、501大学(全大学の68.5%)がセンター試験のみで合否判定を行っているものの、募集人員は少ない。

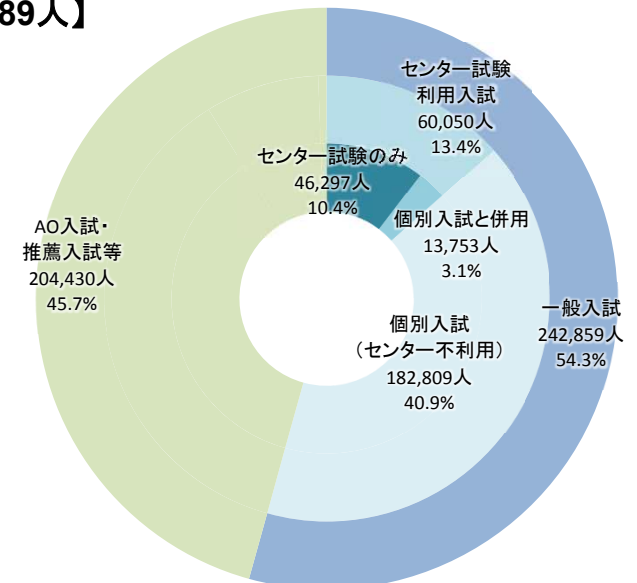
国公立計
【募集人員:570,238人】



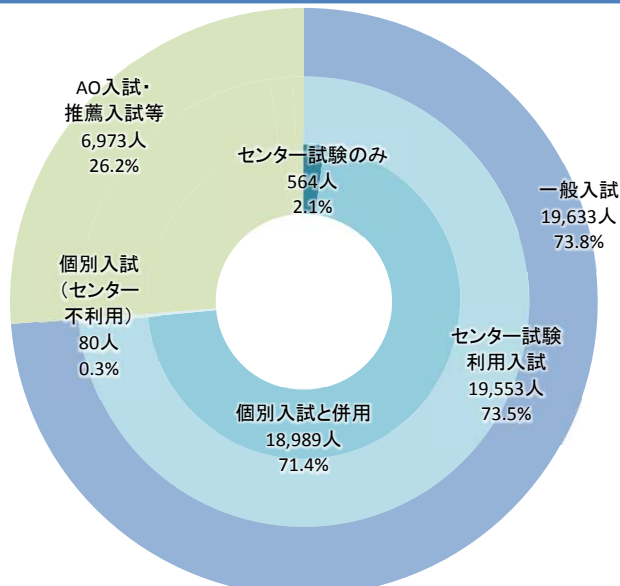
国立大学
【募集人員:96,343人】



私立大学
【募集人員:447,289人】



公立大学
【募集人員:26,606人】



項目反応理論(IRT)に基づくテスト運用について

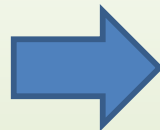
項目反応理論 (Item Response Theory) とは

- 安定した難易度の試験問題を作成するために、解答データの分析に利用される統計モデル
 - ・受験者集団の正誤パターンから各設問の難易度と識別力(精度)を統計的に推定する
- 「能力(学力)測定ツール」としての割り切り
 - ・測定ツールとしての性能保持が第一目標
 - ・個別の設問に得点を定義しない

IRTに基づくテストについて

- 設問の難易度を設定し、その正答率から達成度を判定することが可能。
- 設問の統計的特性(難易度、識別力)をIRTで調べ、IRTに基づき、正誤パターンから受験者の能力推定を行う。
- 設問内容と統計的特性を考慮しつつ問題セット(冊子)を作成

0.1			
0.2			
0.3			
0.4			
0.5			



$$1 + 3 = ?$$



$$\frac{1}{4} + \frac{2}{5} = ?$$



$$\sqrt{5} + \sqrt{20} = ?$$

課題

- 設問の難易度を特定するため、各設問の事前テストの実施が必要であり、非公開が前提
- 通常、大量の設問を事前に作成(数千～数万)するとともに、設問の暴露頻度などを考慮して、項目バンクを更新(設問のリタイア、新規設問の導入)

各国の大学入学選抜に係る共通試験について

国 名	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ		韓国	日 本
共通試験	アビトゥーア試験	バカロレア試験	GCE Aレベル	SAT	ACT	大学修学能力試験	大学入試センター試験
試験回数・時期	1回。2～4月(記述式)と3～6月(口述式)	1回。6月(9月に振替試験を実施)	1回。5～6月 ※1月試験は2013年1月の実施を最後に廃止	7回(10、11、12、1、3、5、6月)	6回(9、10、12、2、4、6月)	1回。11月	1回。1月(+追試験)
解答方式	記述式+口述式	記述式+口述式	記述式	マークシート式+記述式(エッセイ)	マークシート式+記述式(エッセイ、ただしオプション)	マークシート式+数学の一部に記述式	マークシート方式
設定科目数	州により異なる。 ※3領域(言語・文学・芸術／社会科学／数学・自然科学・技術)から5科目又は4科目を選択。うち1科目は口述試験。	取得を目指すバカロレアの種類により異なるが、リセ(高校)で学習した科目を網羅。 ※普通(3コース)及び技術(8コース)は予備試験と本試験で必修10科目程度と自由選択2科目。職業(80以上の専門領域)は必修7科目と自由選択1科目。	実施機関ごとに異なる。 Edexcelの2012年夏実施科目の場合、54科目 ※通常3科目程度を選択。	3領域(言語能力／ライティング／数学能力) 5分野(英語／歴史・社会学／数学／自然科学／外国語[リーディング、リスニング])20種類 ※難関大学において2科目程度必要。	4領域(英語／数学／読解／サイエンス)	7領域(国語、数学、英語、社会探求、科学探求、職業探求、第2外国語／漢文)46科目	6教科29科目
実施主体	各州教育担当省	国民教育省	政府から独立した試験実施機関(Examining Board)	実施主体であるCollege Board(大学協会)がETS(教育テスト事業団)に委託	ACT Inc(アメリカ大学テスト会社)	韓国教育課程評価院	独立行政法人大学入試センター
主な①試験会場、②試験監督者、③採点者	①ギムナジウム(大学進学者が修学する中等教育機関)、②ギムナジウム教員、③ギムナジウム教員	①リセ(高校)、②リセ教員、③リセ教員	①中等学校、②中等学校教員、③Examining Boardが雇用した者	①ハイスクール、コミュニティ・カレッジ、②不明、③ETS	①ハイスクール、コミュニティ・カレッジ、②不明、③ACT	①高校(在学中の高校ではない)又は中学校、②高校教員又は中学校教員、③教育課程評価院	①試験参加大学、②大学教員又は中学校教員、③大学入試センター
合格率	バーデン・ヴュルテンベルク州(2013年度)の場合 一般ギムナジウム:98.1% 職業ギムナジウム:95.4%	86.8%(2013年)	個別の大学が選抜に利用	個別の大学が選抜に利用		個別の大学が選抜に利用	個別の大学が選抜に利用
入学時期	10月	9月	主に9月	主に9月		3月	4月

各国の共通試験における成績表示方法について

アメリカ

①SAT

- Critical reading(言語能力)、Math(数学能力)、Writing(文章表現、エッセイを含む)の3領域。
- 素点ではなく、500点が平均点になるよう調整した上で各領域200～800点の間で10点刻みで表示(61段階)。エッセイは2～12点の11段階(Writingのサブスコア)。
- 3領域の合計2400点満点(600～2400点の181段階)。
- SATは2016年からの改訂が決定し、ACTにより近づく。エッセイがオプションになり、高校の教科科目を重視。

②SAT Subject Tests

- 難関大学を受験する場合、大学の指定に従い2科目程度を受験。
- 英語(1科目)、歴史(2)、数学(2)、科学(3)、外国語(12)の計20科目で各200～800点。
- SATと同様、各科目61段階評価。

③ACT

- English(英語)、Math(数学)、Reading(読解)、Science(科学)の4領域。エッセイはオプション。
- 素点ではなく、各科目1～36点の36段階表示。エッセイは2～12点の11段階。
- 4領域の総合点は合計ではなく、1～36点の36段階表示。SATの1500点(平均)はACTの21点に相当。

イギリス

○GCE Aレベル

- 通常、各大学の指定する3科目程度を受験。
- 各科目、Aスター、A、B、C、D、E、不合格の7段階で表示。

フランス

○バカロレア

- 普通バカロレアの場合、必修10科目程度と自由選択科目(最大2科目)を受験。
- 各科目20点満点、平均10点以上でバカロレア合格。(自由選択科目は10点以上の場合のみ考慮)

ドイツ

○アビトゥーア(バーデン・ヴュルテンベルク州の場合)

- 論述試験4科目、口述試験1科目を受験。
- 各科目15点満点で評価。
- 科目試験の点数を300点満点、ギムナジウム最後の2年間の平常点を600点満点、合計900点満点に換算し、300点以上でアビトゥーア合格。

韓国

○大学修学能力試験

- 7領域46科目の中から各大学への出願に必要な科目を受験。
- 各科目ごとに標準化得点(偏差値)、百分位(パーセンタイル)、9等級の3種類の指標で表示。

米国大学における入学者選抜の例①

1. ペンシルバニア州立大学(ユニバーシティパーク校)

- ・ 志願者47,552名、合格者25,722名(54.1%)、入学者7,650名(2012年)
- ・ 6年以内での卒業率86%

[出願要件等]

- ・ 高校において英語(4単位)、数学(3)、科学(3)、社会科学(3)、外国語(2)を含む合計15単位以上の修得が必要。
- ・ アドバンスト・プレイスメント(AP)や国際バカロレア(IB)等を含む大学進学予備プログラムの修得を推奨。

[出願書類等]

- ・ SAT又はACTの成績、高校の成績証明書、大学独自の願書(エッセイを含む)

[合否判定方式]

- ・ 高校の成績を2/3、SAT又はACTの成績を1/3の比重で得点化し、一定の基準以上の者を合格判定。
- ・ 高校の成績の評価においてAPやIB等の成績があれば加味。
- ・ 高校の成績の学校間格差の調整は行わず。
- ・ SAT等の成績よりも高校の成績を重視するのは、
 - ①1日の試験の結果より長い時間をかけて得たものを重視
 - ②裕福な家庭の子弟はSAT等の準備コースに入り対策を講じており、SAT等の成績は家庭の経済状況の影響を受けることなどが理由。
- ・ 優等学位プログラムや医学特別進学課程を希望する入学志願者の場合は、エッセイや教師の評価書、奉仕活動の経験等も加味して合否判定。

2. ブラウン大学(私立)

- ・ 志願者28,742名、合格者2,759名(9.6%)、入学者1,539名(2012年)
- ・ 6年以内での卒業率95%

[出願要件等]

- ・ 高校において、英語(4単位)、数学(4)、科学(4(実験科学3を含む))、歴史(2)、外国語(4)、音楽・美術(1)、その他(1)を含む20単位以上の修得を推奨。

[出願書類等]

- ・ SAT又はACTの成績(SAT Subject Tests 2科目を含む)、高校3年生前期の成績、高校の内申書、教師の評価書(2名分)、大学共通願書、大学独自の願書(エッセイを含む)

[合否判定方式]

- ・ SAT又はACTの成績、高校の成績、エッセイ、教師の評価等を総合的に判断(それぞれの得点化はしない)。
- ・ 個々の選抜資料についての明確な重み付けは設定されておらず、3人の職員それぞれが合否を総合的に判断。最終的には、この評価を参照しつつ20名で構成される委員会における投票によって合否を決定。
- ・ 高校における履修科目のレベルの高さ、アドバンスト・プレイスメント(AP)や国際バカロレア(IB)等を含む大学進学予備プログラムの成績を最重要視。
- ・ SAT等は家庭の経済状況の影響を受けることも審査の際に考慮。
- ・ 学生集団の多様性確保には配慮(ただし特別の基準、枠等は設けず)。

米国大学における入学者選抜の例②

3. シカゴ大学(私立)

- ・ 志願者25,268名、合格者3,340名(13.2%)、入学者1,527名(2012年)
- ・ 6年以内での卒業率92%

[出願要件等]

- ・ 高校において大学準備プログラムの英語(4単位)、数学(3又は4)、実験科学(3又は4)、社会科学(3以上)、外国語の修得を推奨。

[出願書類等]

- ・ SAT又はACTの成績(SAT Subject Tests不要)、大学共通願書、大学独自の願書(エッセイを含む)、学業成績証明書、教師の評価書(2名分)、高校の内申書

[合否判定方式]

- ・ エッセイ、推薦書、学業成績証明書、課外活動の記録、SAT又はACTのスコア等、志願者の提出書類を包括的に審査

(合否判定項目の重要度)

	非常に重要	重要	考慮対象
人物/個人的資質	○		
推薦書	○		
高校クラスの順位		○	
課外活動		○	
SAT/ACTスコア		○	
ボランティア経験			○
就労経験			○

4. ハーバード大学(私立)

- ・ 志願者34,303名、合格者2,076名(6.1%)、入学者1,664名(2012年)
- ・ 6年以内での卒業率97%

[出願要件等]

- ・ アドバンスト・プレイスメント(AP)や国際バカロレア(IB)等を含む大学進学予備プログラムの修得を推奨。
- ・ 高校において、英語(4単位)、数学(4)、科学(4)、社会科学(3)、歴史(2)、外国語(4)を含む21単位以上の修得を推奨。

[出願書類等]

- ・ SAT又はACTの成績(SAT Subject Tests 2科目を含む)、高校3年生前期の成績、高校の内申書、教師の評価書(2名分)、大学共通願書(エッセイを含む)、大学独自の願書

[合否判定方式]

- ・ SAT又はACTの成績、高校の成績、教師の評価等を総合的に判断(それぞれの得点化はしない)。
- ・ 個々の選抜資料についての明確な重み付けは設定されていないが、高校の成績、教師による評価、SAT/ACTの得点の順で重要とされる。
- ・ 教師による評価では、主に学習への姿勢、他の学生との関わり方、運動能力・芸術など得意な才能についての情報を重視。
- ・ 2名の職員による評価を経て、数名からなる小委員会で合否の仮決定を行い、最終的に30名の全職員による委員会で投票により決定。

受験生から大学に提供する受験生情報の例(米国の例)

○SATにおける受験生情報の提供

米国における大学入学者選抜の際の共通テストであるSATにおいては、本人が希望する大学に対して、テスト・スコアに加えて以下の受験生情報が提供されている。この情報は各大学と受験生とのマッチングを図る際の有効な情報として一般に活用されている。

(主な記入内容)

高校での履修科目、科目別成績、GPA、クラス内順位、高校・地域での活動歴(役職への就任、受賞経験等を含む)、スポーツ歴、希望する進学先の大学のタイプ・希望する専攻、アドバンスト・プレースメント・テスト受験意思、補習教育の希望、入学後のクラブ活動希望、奨学金希望、入学後のアルバイトの希望、1年次の希望する居住形態、人種、英語以外の言語能力、米国市民権の有無、宗教、障害・疾病の有無、数学・科学・ライティングの能力自己評価、両親学歴、両親の年収

○コモン・アプリケーションにおける受験生情報

全米の500大学以上が採用しているオンラインによる出願のためのシステム。共通のフォーマットに必要事項を記入し、志願する大学に提出する。

(主な記入内容)

入学時期(秋、春)、関心のある学問分野、奨学金希望、入寮希望、取得希望学位、米国市民権の有無、出生地、米国在住期間、言語能力、人種、両親の学歴・職業、高校の履修科目・成績、GPA、ACT/SATの成績、TOEFL/IELTSの成績、AP/IB/SAT subjectsの成績、課外活動歴(役職への就任、受賞経験等を含む)、エッセイ